

HCM 肥大型心筋症

HCM 肥大型心筋症とは

心臓の様々な部位に異常を呈します。特に左心室の肥大、拡張が多く、進行していくと頻脈、食欲減退、活量低下、呼吸困難などがみられる心疾患です。心不全、大動脈血栓塞栓症は後肢の麻痺、突然死の原因となります。

代表猫種

アビシニアン、エジプシャン・マウ、サイベリアン、サバナ、シンガプーラ、ソマリ、ノルウェー・ジャンフォレストキャット、ベンガル、メインクーン、ラグドール 他



発症年齢

ラグドールでは平均 2 歳
メインクーンでは平均 5 ～ 7 歳

変異遺伝子保有率※

ラグドールの場合 22.5%
メインクーンの場合 33.1%

※2016～2020年で検査した株式会社VEQTA のデータより。
変異保有率とはキャリアもしくはアフェクテッドと診断された頭数を検査した全頭で割った時の割合です。



HCM 肥大型心筋症は 常染色体優性（顕性）遺伝です。

ノーマル（クリア） aa

野生型のみ検出される（変異が検出されない）場合です。

その遺伝子変異が原因となる疾患の**発症リスクは低い**です。またその遺伝子変異による疾患は後代に遺伝しません。

アフェクテッド（変異ヘテロ接合） Aa

野生型と変異型の両方が検出される場合です。

ただし、常染色体優性遺伝のため、その遺伝子変異が原因となる疾患の**発症リスクは高い**です。

アフェクテッド（変異ホモ接合） AA

変異型のみ検出される場合です。

その遺伝子変異が原因となる疾患の**発症リスクが高い**です。変異ヘテロ接合よりも、重症化しやすいと言われています。

遺伝子は父親と母親からそれぞれ受け継いだものがペアになっています。右図のように片側に変異を持つ場合はヘテロ接合となり、優性遺伝の場合は片側だけでもアフェクテッドとなります。

